



栄光園だより
第139号
2025年4月30日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南莊園町5番18号
〒874-0904 電話 (23) 2827
<http://www.eikoen.jp/>
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

経営理念の継承

確かな福祉実践の方向性を求めて

理事長 江口 敏一



最近、見るから高齢の愚生に対して、福祉施設経営の後継者斡旋ダイレクタメールがよく届くようになった。そろそろ交代の時期ではないかとの客観的な現象かもしれない。実際、多くの福祉施設において、経営者の意に沿う後継者養成が困難と聞く。施設を利用されている方たちにふさわしいと思われる経営可能な人材がいないのか、養成が困難なのか、社会情勢が不安定になる中で施設の経営理念が揺らいでいるのか。あるいは後継者斡旋そのものが事業として成り立つ社会になつた証であろうか。

人は想定外の人生の出来事に直面するとき、自分の思いで生きてきたとの考えが全く覆され、生も死も、誕生を含め、生かされ・導かれていると確信せざるを得ない。

栄光園に導かれて17年目になる私に、「神様の栄光をあらわすとはどのようなにすることか。」が常に問われている。

この栄光園は、第二次世界大戦後、米兵との間で誕生した混血児の支援に対し、キャサリン・スティープンス宣教師の献金と別府不老町教会の野町良夫牧師の合意で法人が設立され、今年で75年になる。事業は信仰熱心な教会員の小郷虎市・小福夫妻が担う形で展開された。虎市は施設建設直後の漏電事故で焼失した施設再建で落命された。以後、小郷小福は懸命な努力を重ね、神様の栄光を現わす道を求め続けてきた。

人助けとして為すべき隣人愛は、聖書のルカによる福音書10章25〜37節「善いサマリヤ人」の例えとして具体的に示されている。

その手順は、①助けを必要としている人に気付く、②その人に心を向け近づき、③持てる専門性を使って必要な

傷の手当てをする、④自分のロバを用い、その人のために宿屋への道をたどる、⑤必要な金銭を提供し、⑥最後まで責任を持つ。

時と場所に依じてこのような実践をすることこそ隣人愛であると聖書は告げている。自分にはこのことができないであろうか。実践できる理念の構築（自分の生き方の基本）が試される。

この支援の具体的な内容は、支援の対象（相手）が誰であろうと自分と全く価値観が異なる人であろうと、その人が必要とあれば、自分の時間・才能・財力を用いること、たとえ、自分の人生が終ろうとも用い尽くすことと考える。

なぜそのように考えることができるか。それは実際、誕生の際にはこれら時間・才能・財力は何も持たずに生まれてくる。今持っている時間・才能・財力は与えられたものであり、愛の実践のために用いるためであると認識せざるを得ない。実際、これらは、自分の人生を終る時には何一つあの世に持つて行くことはできない。生きていく間に、与えられている時間・才能・財力を惜しみなく使うことこそ私たちの充実した人生と言えるのではないか。そして、それが神様が私に与えられた愛への応答ではないかと思えてくる。

時代は、核家族化と少子高齢化の対策が功をなさず、夫婦と子の世帯は減少し、単身世帯と高齢者単身世帯の増

加は留まるところを知らない。すなわち、支援の必要な一人暮らしの増加対策としての居場所づくりは、幼少生に限らず、支援を必要としている青少年、高齢者、幼い子と暮らす母子・父子世帯など福祉ニーズは多岐にわたる。施設型から地域型へ、複数の方たちから一人ひとりの支援へと積極的に取り組んでいければならない。（個人情報保護のもとで相手が誰だかわからずとも）

今こそ、しっかりと経営理念のもと、神様が私たちに与えられた愛の実践の時が留まることなく押し寄せてきているのを実感する。

「善いサマリヤ人」

ルカによる福音書10章25〜37節

ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリヤ人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。「この人を介抱してください。費用がもつとかかったら、帰りがけに払います。」

新任者あいさつ



社会福祉法人栄光園ではこの春8人の新しい職員を迎えました。各施設より一人ずつ「こあいさつ」を掲載いたします。



児童養護施設
保育士
佐保 香衣

3月に福岡県の純真短期大学こども学科を卒業し、4月から児童養護施設で勤めることになりました。佐保香衣と申します。

中学生の頃から、保育士という職業に関心を持っていました。短期大学では保育の専門的な知識や技術を学ぶだけではなく、ピアヘルパー、認定ベビーストラクター、レクリエーション・インストラクター等の資格も取得しました。短期大学の講義で、保育士が保育園や幼稚園以外にも児童養護施設で働けるということを知りました。児童養護施設に勤めていた先生のお話や施設実習を通して、こどもたちの生活に深く関わり支援できるところに魅力を感じ、児童養護施設で働きたいと思うようになりました。これから、1日でも早く仕事を覚え、こどもたちが毎日安心して暮らせるようにサポートしていきたいと思っています。幼いころから、野球やソフトボールで体を動かしてきて、体力があるのでこどもたちと全力で遊びたいと思います！これからよろしくお願ひ致します。



乳幼児総合支援センター
心理士
高田 瑠愛

4月より乳幼児総合支援センター栄光園で心理士として入職させていただきます。ただ今こどもたちになりました。高田瑠愛と申します。

私は高校時代から社会的養護の現場で心理職に就きたいという目標を持ち、大分大学で心理学を専攻してまいりました。こどもと関わる仕事をするために、心理学の勉強だけでは足りない知識を得るべく大学2年次に独学で保育士の資格を取得し、3年次より卒業研究で、里親委託等に伴うこどもの愛着形成に関して、保育と心理支援に着目した研究を行いました。実際に現場に入ると、先輩方の保育やこどもたちの行動、反応から知見が広がり、学生時代とは比にならないほど多くのことを学ばせていただいております。

こどもの声をしっかりと傾聴して気持ちを受け取り、不安感の払拭や心の発達を促す肯定的な関わりを通して自尊心を育てられるような支援を目指します。

心理士としても保育士としても経験が浅く未熟ですが、先輩方にご指導をいただきます。ながら日々邁進してまいります。よろしくお願ひいたします。



野口保育所
保育士
平石 竜馬

4月から野口保育所で保育士をさせていただきます。高校は農業科に進学し、短大で保育科に進学しました。農業での知識も活かしながらこどもたちと楽しく頑張りたいと思います。

私は体を動かすことや話すことが大好きです。こどもたちとたくさん体を動かして遊び保育園での思い出を少しでも多く作れたらと思います。また、こどもたちももちろん大切なお子さんを預けてくださる保護者の方々ともたくさんコミュニケーションを取りお子さんの成長をサポートしていきたいです。こどもたちの個性を大事にし一人ひとりと信頼関係を作り、こどもたちのペースに合わせて保育を行いたいと思います。

今年で保育士になって6年目になりました。まだまだ至らないことがたくさんありますが、自分が卒園した野口保育所に勤めることができ大変うれしく思っています。先輩職員に教えてもらいながら少しでも早く慣れて明るく元気に精一杯頑張ります。よろしくお願ひいたします。



青山こども園
保育士
曾我 公美

別府大学短期大学部初等教育科を3月に卒業し、4月から青山こども園で勤務させていただきます。子育てが一段落し、幼い頃からの夢であった保育士になるために思い切って40代で短大に入学しました。前職では介護福祉士として高齢者施設に長年勤務していました。

息子を10ヶ月で保育園に預け仕事に復帰した際、子育てと仕事の両立に悩む私の話を親身になって聴き、励ましてくださった担任の先生の温かさからこそ保育者を目指した今の私がいるのだと思います。

3月の研修では主に未満児クラスに入り、上手いかず試行錯誤することも多くありますが、他の先生方の言葉かけや保育の仕方を学び日々の丁寧な関わりの大切さや、こどもと心と心が通じ合う嬉しさを感じたり充実した毎日を過ごし、やりがいを感じています。

4月からは0歳児クラスへの配属が決まっているので、ひとり一人のペースに合わせた細やかな対応を心掛け愛着関係をつくと共に、心地よく安全な環境作りと温かい雰囲気の中で保育を行えるよう努力したいと思います。

辞令交付式にて



児童養護施設

卒園生を送る会

児童指導員 土谷 聡一

今年には卒園生が2人おり、園での生活を懐かしみながら皆で送り出したと覚えておりました。卒園生を送る会は毎年開催されますが、毎年様々な催しものがあり、今年はどうするか卒園生の記憶に残る送る会にするにはどうしたらよいかを考え、卒園生がいるホーム職員や担当職員に話を聞きながら、計画してまいりました。

送る会が始まるとこれから羽ばたいていく卒園生に理事長、園長から激励していただき、卒園生には今までの思い出や今後の目標を語ってもらいました。卒園生にとっては船出していく決意を再認識する機会となり、在園生からは卒園に向けての質問をさせてもらうなどこれからの心構えや目標などが在園生にとってもとても有意義なものとなりました。

送る会の後にはみんなで食事会を行い、美味しい夕食を食べながら思い出話を花を咲かせ、みな笑顔で楽しくとても良かったです。

今年の催しものでは、卒園生で長く在籍していた児童もおりたくさんの関係者や職員から支えられて今回、卒園する運びになり、特に今まで関わった職員(歴代の担当)、園長、総主任な

旅立つ児童より

養護施設ならではの生活

K.S

私は3歳の頃にこの児童養護施設にやってきました。病弱だった私は幼稚園に通うまで発熱や感染症などに悩まされていたのを覚えています。小学校の6年間は同級生の同じ施設にいた友達を中心に楽しい生活をしました。しかし、6年生にもなると思春期が始まり、施設にいるという不自由さや、周囲の友達の生活形態の違いにある一種の恥ずかしさなどを知っていったのを覚えています。中学生になると自分より年が上の人たちとの関係が深まり、様々なモノの考え方や捉え方を学び、刺激的な3年間だったと思います。高校生にもなると、自分で責任を持って行動をしたり、主体的になって物事に取り組む大切さを実感しました。そして今では、このような経験を与えてくれたこの環境に感謝をしています。

また、この約15年間は私自身の一生を決める、そんな期間なんだろうと感じます。この施設にいたからできなかったこと、逆にこの施設にいたからできたこと、それらに様々な感情を抱いたこと、何よりこの栄光園で育った全てが他にはない私にしか描くことのできない一生になると信じています。この施設で得たものに感謝し、自身の夢の実現に突き進んでいきます。



どと共に卒園生王決定戦を行いました。今までの園生活の中での思い出や好きな食べ物など質問形式にて行い、とても盛り上がり卒園生、在園生、職員ともに楽しい時間を過ごすことができました。

会が終了するにあたり、羽ばたいて行く卒園生を見送り寂しい思いがありました。これからの卒園生の船出を喜び送り出すことができました。

これまで卒園生は、多くの方に関わっていただき支援していただいたおかげで無事送る会を行うことができました。卒園生も羽ばたいていくことができます。この場にてお礼申し上げます。ありがとうございます。



卒園生を送る会

職員の動静

4月採用

- 児童養護施設 佐保 香衣 (保育士)
- 乳幼児総合支援センター 高田 瑠愛 (心理士)
- 平山 結衣 (保育士)
- 塩田 陽達 (保育士)
- 田邊 悠颯 (保育士)
- 鈴木 歩夢 (調理員等)
- 青山こども園 曾我 公美 (保育士)
- 野口保育所 平石 竜馬 (保育士)

新規任命

- 児童養護施設 松永 彩香 (家庭支援専門相談員)
- 乳幼児総合支援センター 石川 由衣 (グループリーダー)
- 渡邊 由季 (里親訪問・養育支援員)
- 太田 有香 (里親支援相談員)
- 田邊 悠颯 (保育士)
- 鈴木 歩夢 (調理員等)
- 青山こども園 二宮 孝介 (主幹教諭)

異動

- 青山こども園 山内 孝太郎 (保育士)

退職 (3月付)

- 児童養護施設 榎本 薫 / 前原 彩 / 姫野 弥生
- 乳幼児総合支援センター 佐藤 亜由子 (1月付)
- 遠嶋 史人
- 佃 尚弥 / 芝尾 康司
- 青山こども園 阿部 梢 / 渡邊 歩 / 松本 真人
- 野口保育所 溝部 知賢 / 川本 照美



乳幼児総合支援センター 栄光園

大切な時間

うさぎグループリーダー
保育士 石川 由衣

現在、うさぎグループは2歳2ヶ月から3歳までの5人の子どもたちが生活しています。3月になると、うさぎグループの多くの子どもたちが次の環境へと進む準備を始めます。そして4月には、毎日生活を共にした友だちや保育者とも離れ離れになり、それぞれの委託先で生活しなければなりません。委託先は家庭や里親、児童養護施設が主になります。慣らし保育が進むにつれて、繊細な子どもたちは徐々に気持ち不安定になっていきます。養育者が代わるということとは、子どもの人生に大きく変化を与えることだと私は考えます。そのため、次の養育者にこのまの様子を全て伝えて託していきます。また、残された時間の中で、一つ



一つの関わりを大切にし、子どもの気持ちに寄り添い受け入れていき、安心して次の環境に移行できるよう心掛けています。私たち保育者にとっては寂しいことではありませんが、乳幼児総合支援センターで一緒に過ごした時間が子どもたちの未来に繋がることを喜ぶと共に、子どもたちにとって大切でかけがえのない時間となりますように願っています。

家庭復帰に向けての 親子宿泊訓練室使用について

家庭支援相談員 小野 真里奈

乳幼児総合支援センターになり1年が経ちました。新しくなった施設では親子宿泊訓練室ができ、家庭復帰に向けての外泊支援ができるようになりました。養育不安を抱えている家庭が多く、実際に子どもが出す問題行動も様々です。子育てには正解がありません。そのため親子生活訓練室と一緒に過ごすことで、ミルクの作り方、沐浴、寝かしつけ、頭打ちや痲癩、噛みつきなど、そのことにも合った対応を職員と保護者で模索しながら挑戦することで、保護者も臨機応変な対応ができるようになります。

保育士だけではなく、助産師、心理士、栄養士など様々な分野の専門職員が家庭復帰に向けて支援を行い、子どもが家庭復帰しても保護者が安心して過ごせるように親子宿泊訓練を実施しています。訓練を通して保護者が養育

に対して自信を持って取り組み、たくさんの方が居ることを感じてもらえるよう、センターの職員全体で力を合わせ家庭復帰やその後の支援に繋げていける場所にしたいと考えています。



青山こども園

園名変更について

園長 本庄 智宏

48年間慣れ親しんできました「青山保育所」の園名が4月より「青山こども園」となります。これまで就労等の理由で家庭での保育ができないお子様をお預かりしていましたが、青山こども園では、就労等の条件がない3歳以上のお子様も預かれるようになり、幅広く子育て世代をサポートしていただけるようになります。

これまで以上にきめ細やかで、ていねいな保育と、就学に向けての教育をさらに充実していきたいと考えています。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

「letsクッキング☆

保育士 溝口 那奈

ばんだ組2歳児のお友だちは、2月14日のバレンタインデーにちなんで型抜きクッキー作りをしました。型抜きだったので型の使い方も上手になり、生地に型を押し付けクリクリと生地から離れやすくなる手順がよくできていました。型抜きできた形を子どもたち同士で見せ合い「かわいい」「それやりたい。貸して！」と言葉を交わしながら楽しんでいました。出来上がったクッキーは、おやつ時に「おいしい」「もう一個！」と何度もお代わりしてよく食べていました。バレンタインデーということで、ラッピングしておうちの人や先生たちに照れた様子を見せながらもプレゼントできました。園長先生や他のクラスの先生に「美味しかったよ」「また作ってね」と言われてうれしそうなおともたちでした。



これからも、クッキングでいろいろな食材に触れたり、自分で作ったという達成感を味わったりする経験をしながら、楽しく食育をしていきたいと思っています。

たのしかったね 親子リトミック

保育士 阿部 梢

きりん組3歳児クラスで年度末の保育参観がありました。きりん組の一年間でたくさんの音楽に触れてきたこともちですが、この日は大好きなおうちのひととの触れ合いリトミックということで、いつも以上に楽しんで表現する姿が印象的でした。リトミックを含む一年間の保育を通じて「聞く力」を培うとともに、「感じ考える力」「自分なりに表現しようとする力」が育つことを目標としてきましたが、今のこどもたちの姿から、しっかりとその目標を達成できたのではないかと感じています。

今後も様々な活動を経験していく中で、こどもたちが考えて判断する力や、自分だけではない友だちの思いにも気づき、認めあったり励まし合ったりして育ちあえるような関係性を築けていけるよう見守り、サポートしていきたいと思えます。



自分でやってみよう!

保育士 清原 里奈

ばんだ組1歳児クラスへの進級に向けて、少しずつ保育士と一緒に身の回りのことに挑戦しているうさぎ組0歳児のお友だち。私たち保育士はこどもたちの「やってみよう!」の気持ちを大切に、身の回りのことに挑戦する姿を見守りながら援助しています。



片付けをしたり自分でスプーンを持って食事をしたりと様々な場面面で成長した姿が見られます。ご家庭でも、こどもたちが挑戦する姿をゆくり見守る機会を作ること、「こんなことが1人でできるようになったんだ!」とこどもたちの成長に驚かされることがあるかもしれません。こどもたちが頑張った時にはその姿を認めてあげ、たくさん褒めることで次のやる気にも繋がります。保育所での頑張りも私たちからお伝えし、お家の方と一緒にこどもたちの成長を見守っていきたいと思えます。

年度末のある日の出来事

保育士 渡邊 歩

ぞう組4・5歳児クラスのあるお友だちが「今日は○○ちゃんとケンカしたけど自分たちで解決したんだ!」と

とても誇らしげに話してくれました。

これまで幾度となくトラブルの仲立ちをしてきましたが、自分たちで解決できたなんて!と感動したと同時に「すごいね!」と認め言葉をかけました。「こどもたちだけで解決する」ということは、自分の気持ちを伝える・相手の気持ちを聴く・気持ちに折り合いをつける(我慢する)・手だてを考える…などたくさんの方が必要になります。このような力がしっかりと育ち始めていくなと感じます。こどもたちが大人になった時に力を発揮できるよう、長期的な視野をもってこどもたちの育ちを支え見守りたいと思えます。

卒園式がありました

主任保育士 二宮 孝介

3月22日(土)に乳幼児支援センター栄光園の子育て支援ホールにて、卒園式がありました。今年度は、18名のお友だちが卒園し、小学校や幼稚園へ進



みました。園長先生から卒園証書ももらうときには少し緊張気味のこどもたちでしたが、これまでの練習の成果がでて上手に受け取っていました。その後も保護者の方の温かいまなざしの中、こどもたちは元気よく思い出コールを言ったり、卒園の歌を歌っていました。無事にこどもたちを送り出すことができて今はホッとしています。卒園したこどもたちが、今後大きく羽ばたいていつてくれることを願っています。

野口保育所

新しい年度が始まりました。野口保育所には保育目標である「こどもにとつて毎日が楽しい保育」「食育を通して楽しく食事をする保育」「保護者が安心して預けられる保育」「地域との交流を大切にする保育」があります。そのために職員間での連携を大切に資質向上を目指し、お家の方が安心して預けて頂けるように笑顔を忘れず頑張りたいたいと思えます。今年度もよろしくお願ひ致します。

野口保育所 職員一同
少しずつですが前年度の2月からの行事の様子をお伝えします。

保育参観

保育士 溝部 知賢
今回初めてのリーダー保育士として



の保育参観でした。子どもたちがどのような遊びをすれば楽しく参加できるのかを考えることが難しかったですが、担任

同士で話し合い、豆まきの遊びを取り入れました。当日こともたちは、保護者のもとから離れ友だちと一緒に遊んだりする姿を見てもらい、私もお家の方と一緒に色々な話をする事ができてうれしく思いました。6月の時には一人でしたが、2月には5人と賑やかになり、子ども同士も楽しく遊んでいる姿や成長した姿をお家の人に見せることができたので良かったです。

共同研究会に参加して

保育士 溝部 知賢

今回の共同研究会に参加しました。今回のテーマが「5歳児の保育」だったのですが、去年4・5歳児のクラスの担任をしていることもあり、5歳児にはどのような保育があるのかを知りたいと思いました。各グループ毎に分かれ、「小学校との連携」や「5つの力」などについて話し合ったり、実践をしたりして進めてきました。内容はとても難しいところもありましたが、今回の共同研究会を通して、各園の先生方と話すことができて良かったです。

ひなまつりの遊びをしたよ!

保育士 二宮 香織



0歳児クラスのいちご組ではひなまつりに向けて玄関の雛壇を見たり、雛人形の制作や子どもたちが烏帽子や冠を身に付けて記念撮影をしました。その他にも空き箱を白・ピンク・黄緑色にした「ひし餅積み」をして遊びました。月齢の低い子は好きな色を持ち歩き遊んだり、月齢の高い子どもは高く積み上げて遊びました。遊んでいくと高く

積み上げるにはそつと置いてみよう、下の積み木を押さえてみよう、色々試していることでも姿が見られました。こうした子どもたちの様子に保育士も共感したり、応答していくことで子どもたちは更に好奇心を持って積み木に関わり、0歳児なりに遊びを発展させていくことができたようでした。

避難訓練

主任保育士 末吉 佳奈

3月に総合避難訓練を行いました。消防署の方に来てもらうとまた違う雰囲気の中、毎月行っている避難訓練を見てもらい、消火器の使い方など話をして頂きました。その後はみんなで消防車の見学をしました。運転席にも

聖書の言葉

(ヨハネによる福音書17章24節)

父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。

別府不老町教会 牧師 尾崎 二郎

イエス様は、いつもこのように祈っておられます。「父」とは、天にまします私たちの父のこと、「わたし」とは、イエス様のこと、「彼ら」とは、私たち人間のことです。つまり、イエス様は寝ても覚めても、私たちの知らない処でも、常に私たちのことを覚えて祈って下さっているということです。

牧師たちも、栄光園に招かれた時は、皆さんと共に、主の祈りをお祈りして栄光園にある「私たち」として過ごします。そしてその時が終わると、それぞれの教会に戻って、イエス様のように、皆さんのことを覚えて執り成しの祈り続けるのです。

先月3月末に、桜が満開の園に招かれた時、子どもたちが春休みの中で、のんびりとした雰囲気の中にも、そこはかとない寂しさを、私は覚えました。園長に聞けば、多くの子どもたちが、3月までに園から旅立たれたということでした。

4月からは「日々の糧」を共に頂く相手も変わることでしよう。又、一人暮らしを始める方も居られるかも知れませんね。そのように、この地上での私たちの生活は変化しつづ継続して行きます。でも、生活が変化しても、イエス様が共におられる、ということには変わりがないのです。イエス様

は人を愛しこそすれ、決して人を憎むことは出来ないお方です。そんな素晴らしいイエス様と共に、私たちは最後まで人生を全うすることが出来るのです。
桜の花が開きそして散り行くような日々の時間の経過に日本人は敏感です。その移り行く全ての時にあって、イエス様は、私たちと共にいて下さいます。それと同時に、「天地創造の前からわたしを愛して」と祈られているように、イエス様は、計り知れないスケールで私たち人間を、愛し続けて下さいます。
3月最後の金曜学校で、窓の外の桜の花びらが散り行くのを眺めながら、皆さんで「かみさまのあいは」の讃美歌を賛美したことを覚えてつつ、これからも皆さんでイエス様に守られ愛され続けましょう。

かみさまの あいは	こどもおともいっしょに
しみとおる	さんびのうたをうたおう
わたしたちの ころろに	おともおんもいっしょに
ひのひかりのように	さんびのうたをうたおう
やまもおかもいっしょに	さあみないいっしょに
さんびのうたをうたおう	さんびのうたをうたおう
うみもおかわもいっしょに	いつまでもいっしょに
さんびのうたをうたおう	さんびのうたをうたおう
もりもはしもいっしょに	
さんびのうたをうたおう	
とりもけものもいっしょに	
さんびのうたをうたおう	





座ったり、近くで見ると消防車に大喜びのこともたちでした。

お別れ遠足



主任保育士 末吉 佳奈

1年間一緒に過ごしたお友だちや保育士と一緒に別れ遠足をしました。4、5歳児クラスは日出にある石ころ動物園や糸ヶ浜公園に行き石を拾って、後日その石に絵を描きました。各クラス楽しい時間を過ごすことができました。お家の方が作ってくれたお弁当も美味しそうに食べていました。

楽しかったお別れ会

保育士 梅木 あゆみ

会場に卒園児が入場すると在園児、保育士たちから拍手で迎えられ、緊張しながらも嬉しうでした。みんなの前に座ると自分たちの入園当時の写真を少し恥ずかしそうに



卒園式

主任保育士 末吉 佳奈

見せて、自分たちが保育園で楽しかった遊びを発表しました。会の中で遊びのコーナーもあり、好きな遊びで満足してました。また、在園児たちとのプレゼント交換や卒園式で歌う歌を披露したり、会食では異年齢児たちと交流を深めながらおいしい給食のお弁当を食べて楽しんでいました。とても素敵な思い出づくりができたお別れ会でした。



今年3月22日(土)に野口保育所にて、卒園式を行いました。当日は卒園児13名の成長した姿が見られた感動の卒園式でした。幼稚園・小学校に行っても元気に頑張ることを願って、応援したいと思えます。

地域交流事業 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

1月と2月のくるみは、中東先生をお迎えして「英語で遊ぼう」のイベントを行いました。今回のテーマは、乗り物で、身近な乗り物の名前をゲーム感覚で英語で何度も言いながら覚えていきました。そして、最後にカードで乗り物の絵合わせゲームをしました。



また、歌やゲームを取り入れ、体を動かしながら1から20までの数を数えたりして遊びました。今回の活動で少しでも外国語への関心を持つてくれれば幸いです。

2月は、韓国の「オンヌリ教会のハーブチーム」の方々38名の皆さんが遊びに来てくれました。バイオリンの演奏を聴かせてくれたり、K-POPダンスやテコンドゥの武術、ミュージカルを披露してくださるなど盛りだくさんの演目を準備してくださっていました。

その後は、学生さんたちが準備してくださったゲームや遊びを楽しみました。そして、最後にホープコーンや綿菓子、それぞれのこどもたちにマフラーのプレゼントもいただきました。



コンサートの後、こどもたちは、春の心地よい空の下で昼食を食べました。戸外で食べる食事は一段と美味しかったのだと思います。御協力いただきました皆様ありがとうございます。



栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝しております。皆様のこのような思いは、こどもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをつつも嬉しく思います。

2025年1月1日～2025年3月31日(まで)

賛助金

- 小郷晶子様 別府市
- 木村洋子様 大分市
- 真愛幼稚園様 別府市
- 田原明紀様 別府市
- 田原陽子様 別府市
- 日本基督教団別府野口教会様 別府市
- 日本基督教団門司大里教会様 北九州市
- 竹内富美雄様 別府市
- 帆足和生様 別府市

一般寄付

- 山口産業(株)様 別府市
- 21世紀キリスト宣教会 速見郡
- サンライズコミュニケーションチャーチ様
- 一般財団法人日本児童養護施設団様 東京都港区
- 川本順平様 別府市
- 塩手公朗様 別府市
- 整体屋 安部様 別府市
- 匿名様 別府市
- 日本基督教団杵築教会様 杵築市
- 豊和銀行従業員組合様 大分市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 井上せつ子様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 堤峰子様 国東市
- 匿名様 中津市

特別物品寄付

- 鉛筆 (株)都留紙器工業所様
- レタス (株)林ケミックス様
- おくるみ、スタイ (株)Aden&Anis(株)様
- 名前入り鉛筆 明石文昭堂様
- 砂糖・クッキー・絵本 池田順行様
- 衣類・おもちゃ・抱っこ紐 池邊春奈様
- パン 石窯工房モコモコ別府店様
- ワイシャツ 大友英一様
- お菓子 大柳恵子たんぼぼ食堂(とも食堂)様
- 恵方巻き・ちらしずし
- カレー・フルーツ缶詰 (株)河野智幸・和江様
- 洋服 (株)カライフ大分様
- 洋菓子 (株)GMAネクス様
- 文具券 (株)イマジン様
- 文具類 (株)信和様
- 衣類・靴 川島和博様
- わらび餅 甘味処鎌倉別府鉄輪温泉店様
- お菓子・CD 後藤やす子様
- レタス コルデアアール農園 RYLAND(株)様
- レタス コルデアアール農園 九州電力様
- レタス 高速道路トールテクノロジ様
- レタス コルデアアール農園
- お米・キャベツ・さつまいも・トマト 佐藤真澄様
- 衣類・ひな人形 佐藤真澄様
- お菓子 マスケーキ 白石郁様
- お菓子 クリス マスケーキ 高橋恵一様
- 人参 ダイヤモンドグループ(株)様

招待・奉仕

- 桜(切り花)雪柳の苗木 竹内富美雄様
- 衣類 谷まい様
- 洋服 匿名様
- おもちゃ・衣類 友岡梨乃様
- 人参 仲内隆様
- おもちゃ(英語教材) 中東ヨージ様
- みかん、いちご、お菓子 中山田正春様
- こんにゃく
- 書籍 野間英明様
- おもちゃ・衣類 前田綾子様
- お菓子 牧野千里様
- 素食カレーフレーク 松本洋子様
- お米 松村三子様
- おもち・衣類 明治安田生命大分北営業所様
- 衣類・果物・お菓子 黒木正道様
- わらび餅 山本明美様
- 歩行器・洋服 森田佳奈子様
- パン 石窯工房モコモコ別府店様
- いちご 菊池様
- みかん 安部民子様
- 甘夏 東藤信様
- ランドセル・学用品等
- 大任建販(株)代表取締役社長 前原省吾様
- タオル・洗剤 緒方町女性退職現職連絡協議会様
- 野球教室(ソフトバンクホークス新垣選手) 大分県遊技業協同組合様
- 野球教室(ソフトバンクホークス新垣選手) 新垣選手様
- サッカー大会 そごう・西武九州営業支所様
- ハンドマップサージ ハンドボード様
- 書道 荒金節子様
- 散髪奉仕 WEST VILLAGE 西村大輔様
- Beauty MORE 中村雄一様
- Hair Salon Awa 立川奈美様
- 金曜学校 別府不老町教会 川野 是様
- ” ” 別府不老町教会 尾崎二郎様
- ” ” 別府教会 庄司宣充様
- 卒園児への自動車免許取得助成 清野 量様
- 学習ボランティア 山口産業(株)様
- 林田侑士様・原優月様・中村進様
- 子ども食堂 集いの場くるみ
- マジック/水田直子(温泉たまご)様
- ハナミズキ(田中真子・小田原千恵子)様
- 琴/佐々木寿恵(菊雅風寿恵)様
- 英語で遊ぼう/中東ヨージ様

物品寄付等のお礼状について

いつも栄光園の子どもたちのことを気にかけていただきありがとうございます。
「寄付のお礼のお手紙をその都度お届けすべく」ところではありますが、郵便料金高騰のため栄光園だよりを送らせていただく際に同封させていただきたいと考えております。
ご理解のほどよろしく願っています。

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務局は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願い致します。
口座名義 社会福祉法人 栄光園
口座番号 019300220748



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

大きな自然災害や、経済戦争など世界中がとて不安定な状況に置かれていると思えます。こんな時だからこそ次の社会を担っていくれること私たちの教育に力を注がねばならぬのではないかと感じています。
しかし、日本中の経済格差は、こどもたちの教育格差、経験格差を生じさせているのではないのでしょうか。教育を受ける権利を守るためにも誰もが受けられる公教育を充実したものにしたいと願っています。塾に通えないこどもの未来も明るいものとなりますように……
(原田)